

【相談】



どぶ漬けメッキ用のタップを、使用するよう指示されました。
どぶ漬けメッキ用のタップとは何ですか？
また、どぶ漬けメッキとは何ですか？

【回答】

どぶ漬けメッキとは、現場的に言っている 俗語です。
下記の説明にあるように、相当厚いメッキ加工のことを言います。
メッキ前めねじ加工用で、オーバサイズタップ (+0.3~+0.6 mm程度)の
ことを、通称:どぶ漬けメッキ用タップと呼んでいます。



【説明】

【どぶ漬けメッキとは】 正式には、溶融亜鉛めっきと言います。

高温で溶かした亜鉛に鋼材を浸し、表面に亜鉛皮膜を形成する技術です。
亜鉛メッキ加工を施した鋼材は、錆びや腐食を発生しにくいのです。



【亜鉛めっきが使われている所】

温室、室内プール、道路、橋梁、土木、架線金物などに
施され身近なものでは、送電線用の鉄塔などもあります。



ナット等のめねじ加工に どぶ漬けメッキする時は、どんなタップを選べばいいの？

まずは、施すメッキの膜厚を確認する必要があります。
めねじにメッキが施されると、ねじ径が小さくなるので、
その分を見込んで、ねじ径を大きくする必要があります。
JIS規格には、右表のようなメッキ厚の規格があります。
寸法にもよりますが、どぶ漬けメッキ用のタップには、
通常、2級+0.3 または、2級+0.6mm のオーバ
サイズタップが、利用されることが多いようです。

メッキ厚を考慮した めねじ有効径の寸法許容差
(JIS B 0209-5,1048より) 単位:mm

ねじの呼び径	ピッチ	めねじ 有効径 寸法 許容差
M10	1.5	+0.510~+0310
M12	1.75	+0.565~+0335
M14 M16	2	+0.632~+0340
M18 M20 M22	2.5	+0.754~+0350
M24	3	+0.905~+0360

【アドバイス】



溶融亜鉛めっき(どぶ漬けメッキ)の場合、メッキの厚さにバラツキがある為、最適な
オーバサイズタップを選定するのは、簡単ではありません。実際に加工を行いながら
タップを選ぶこととなりますが、当社では SP II (2級)+0.3のオーバサイズタップを
M10~M30まで 特定流通品としてラインナップしておりますので、このタップから試用
してみてください。

また、メッキ前のめねじ検査用のねじプラグゲージの製作対応も可能です。